

## 5. すむ—住—

菊地暁 folklore.lecture@gmail.com

### 1. 原論

- ・「家にいること (at home)」の力
- ・民家：常民（≒農民、職人、商人⇔貴族、武家、僧侶）の住まい
- ・今和次郎（1888-1973）青森県弘前生まれ、東京美術学校図案科卒、早稲田大学で教鞭  
白茅会（1917）参加、柳田国男に師事、神奈川県内郷村調査（1918）、『日本の民家』（1922）

### 2. 前近代

- ・立地環境：所在（北国、南島、農村、山村、漁村、街場…）と素材（木、紙、土、石…）
- ・外観：屋根（切妻、入母屋、寄棟…）と外部施設（門、塀、井戸、厠、牛馬舎…）
- ・内部構造と使用法：間取り（ex「田の字型」）、火まわりと水まわり、神棚と仏壇、
- ・今和次郎 1958「住居の変遷」：土間＝原始／板間＝貴族様式／畳間＝武家様式
- ・日本の「住」の特徴：モジュール性 (modulability)、移動性 (mobility)、可変性 (flexibility)

### 3. 近代

- ・「団地」の誕生：日本住宅公団法（1955）
- ・DKスタイル：「食寝分離」「分離就寝」
- ・さまざまな耐久消費財：電気冷蔵庫、電気洗濯機、白黒テレビ…
- ・団地的ライフスタイル：ホワイトカラーの父、専業主婦の母、そして子ども

### 4. 現在

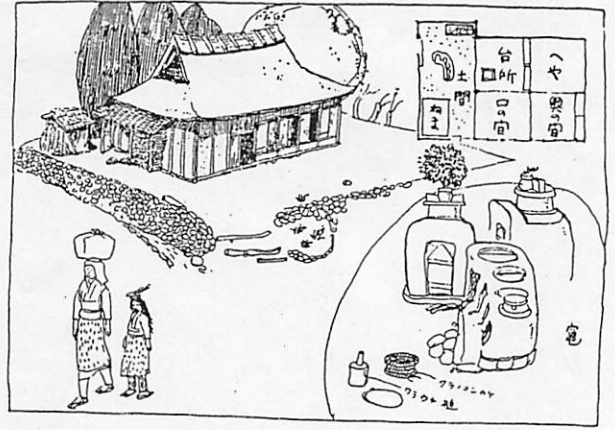
- ・「環境」からの離脱／「生活＝消費空間」化／「情愛空間」化
- ・持続する民家／持続するモノ／持続するカタチ・暮らし方…
- ・DKスタイル／団地的ライフスタイルの陥穽
- ・住むことをめぐる多様な問題／持続可能な住のデザインのために

#### [文献]

- 今和次郎 1922『日本の民家』鈴木書店（1983 岩波文庫）  
大間知篤三他編 1958『日本民俗学体系 6 生活と民俗 I』平凡社  
西川卯三 1965『住み方の記』中央公論社  
青木俊也 2001『団地2DKの暮らし—再現・昭和30年代—』河出書房新社  
鈴木成文編 2002『住まいを語る：体験記述による日本住居現代史』建築資料研究社  
藤森照信 2005『人類と建築の歴史』ちくまプリマー新書  
五十嵐太郎 2006『現代建築に関する16章：空間、時間、そして世界』講談社現代新書  
瀝青会 2012『今和次郎「日本の民家」再訪』平凡社  
中谷礼仁 2017『動く大地、住まいのかたち：プレート境界を旅する』岩波書店

#### [関連施設]

- 大阪市立すまいのミュージアム（大阪市天神橋筋） 日本民家集落博物館（豊中市服部緑地）



92 図 山城愛宕郡の農家

の切干を冬盛んに作っている。それから海へ突き出た突端の波切という小さい町は岩の上に家並の出来た素的な光景の町であることも指摘しておきたい。

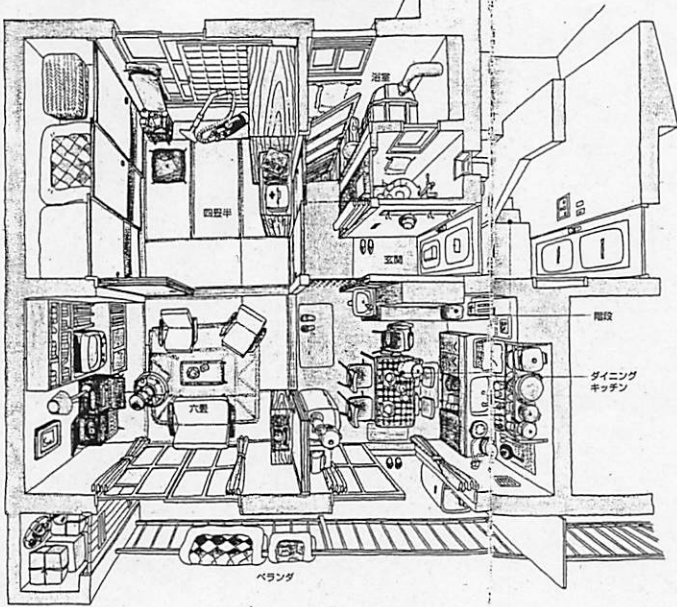
四 京都八瀬の農家

京都の画家たちの画題にされる大原女の村は、この家のある八瀬村の隣村である。そしてこの村の風俗も大原村と同じで、村人たちは毎日柴や切花などを頭上に載せて、京都の市中に売り出しに出ている。  
この村の東と西とは、六、七百メートルの急な傾斜の山になっていて、その溪の底を高野川が流れているが、その川沿いに村の家々が建てられているのだ。そして米は勿論野菜をも他所から買って来ねばならぬ

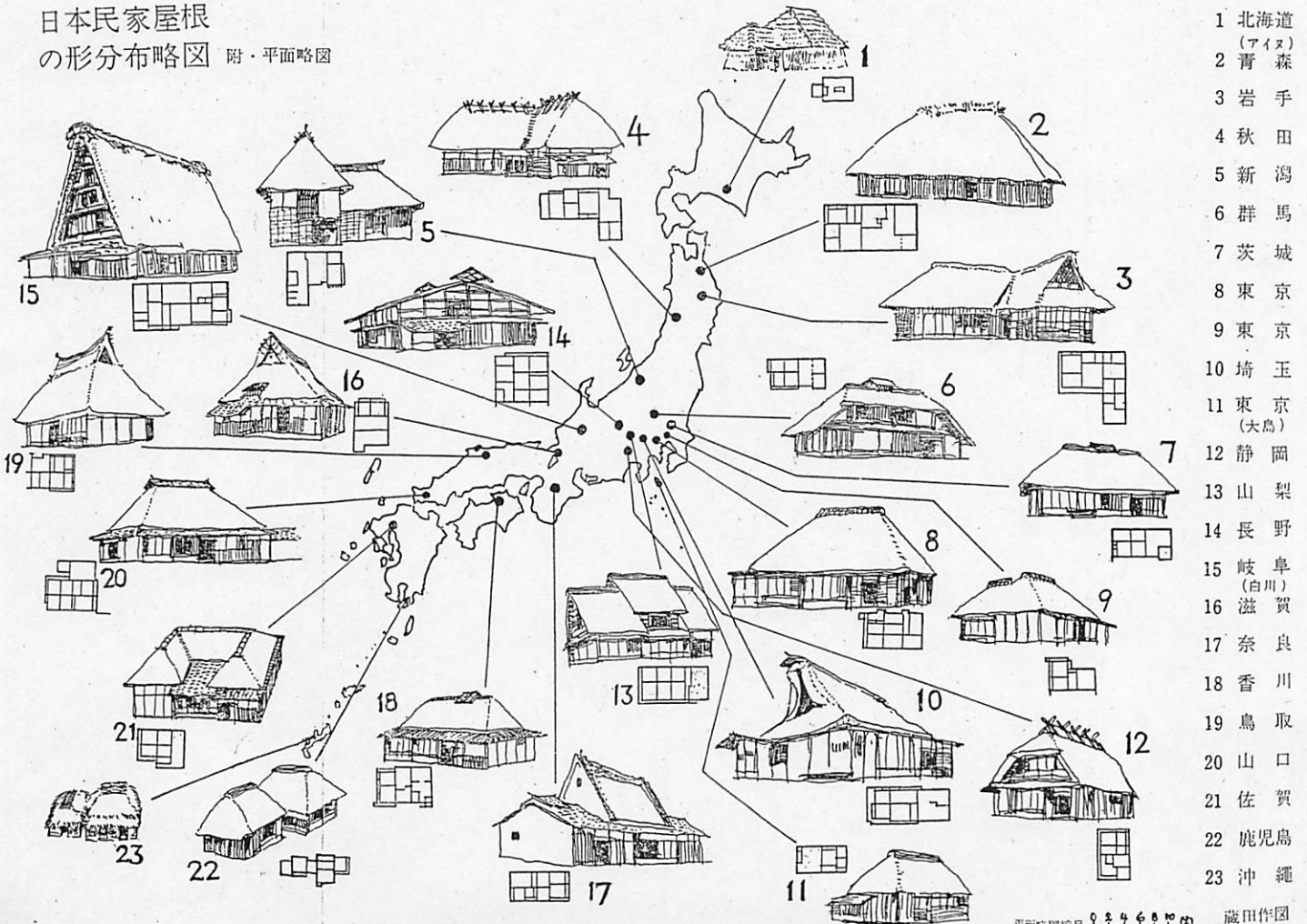
青木俊也 2001

2DK俯瞰図

日本住宅公団1958年型設計。実業平田地。昭和37年の生活再現。模型のある家。第二部・陽子と人夫の生活。生活資料920号。



日本民家屋根の形分布略図 附・平面略図



- 1 北海道 (アイヌ) 森
- 2 岩手
- 3 秋田
- 4 新潟
- 5 群馬
- 6 茨城
- 7 東京
- 8 東京 (大島)
- 9 埼玉
- 10 東京 (大島)
- 11 静岡
- 12 山梨
- 13 長野
- 14 岐阜
- 15 岐阜 (白川)
- 16 滋賀
- 17 奈良
- 18 香川
- 19 鳥取
- 20 山口
- 21 佐賀
- 22 鹿児島
- 23 沖縄